

LMcorsa

60  **H.YOSHIMOTO**
 **R.MIYATA**

SUPER GT 2019 Race Report Rd.4 Chang GT

6月29日 | 天候：晴れ | コース：チャン・インターナショナル・サーキット | 路面：ドライ

Qualifying Day Summary

昨シーズンに3位に入った相性の良いコースに挑んだ
LMcorsaは、予選Q1を宮田選手が7番手で突破し
予選Q2を担当した吉本選手が12位となる

Qualifying Day

SUPER GT シリーズで唯一の海外戦となるタイラウンドが、今シーズンも6月末に開催された。舞台となったのは、タイ東部のブリラム県にあるチャン・インターナショナル・サーキット。タイラウンドは6年目の開催となっていて、開催初年度の2014年、2016年、2017年は10月に実施されていたが、今シーズンは去年と同様の時期に行なわれることとなった。



タイは5月から10月まで雨期となっていて、昨年は予選時にスコールがサーキットを襲い荒れた展開となった。しかし、今年はレースウィーク前からスコールが降ることはなく、サーキットが雲に覆われる時間帯は多いものの、雨を心配する必要はなさそうだ。

SUPER GTの2019年シーズンは年間8戦のスケジュールが組まれていて、第4戦となりタイラウンドはシーズン前半の締めくくりとなる。

LMcorsaは開幕戦から第3戦まで毎戦入賞を果たしてポイントを獲得しているが、結果は満足できるものではなく、シーズン後半に追い上げるためにも今戦で上位入賞を果たしたい。しかも昨シーズンのタイ戦は公式練習が3番手で、スコールに見舞われた予選こそ16番手と沈んでしまったが、決勝レースでは数多くのパッシングを成功させて3位に入り表彰台に登った。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3とコースの相性も良く、チーム一丸となり今戦も好結果を残すことを目標としてきた。

Qualifying Day

そんな第4戦の「Chang SUPER GT RACE」は、6月29日（土）と6月30日（日）の二日間に掛けてスケジュールが組まれていて、29日に公式練習と予選、30日に300kmの決勝レースが行なわれる。

29日の10時からスタートした公式練習は、まず吉本大樹選手がSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込んでマシンの状態を確認。続いて持ち込んだタイヤのチェックとともにセットアップを進めていく。4回のピットインとアウトを繰り返して22周を走行すると宮田莉朋選手にバトンタッチ。残り時間約30分でコースインした宮田選手は、決勝レースを想定したロングランを行った。公式練習の終盤10分間はGT300クラスの専有走行となり、引き続きSYNTIUM LMcorsa RC F GT3のステアリングを握った宮田選手が予選シミュレーションを実施。計測最終周に1分33秒344のベストタイムをマークして、24台が参戦したGT300クラスの中で7番手のタイムで公



式練習を終えた。

<予選>

公式練習終了から約3時間のインターバルを経て行なわれた予選Q1は、宮田選手が担当する。路面コンディションは公式練習から引き続いてドライとなり、ハイスピードの激戦が繰り広げられた。15時ちょうどにコースオープンとなると、一斉にマシンがコースに入っていく。宮田選手は序盤の3分ほどピットに留まり、タイムアタックのタイミングを伺ってコースイン。インラップから計測3周目に掛けてブレーキやタイヤに熱を入れると4周目からアタックを開始し、まずは1分33秒679をマーク。翌周には1分33秒483までタイムアップする。この結果により7番手で予選Q2への進出を果たした。

GT500クラスの予選Q1を挟んで実施されたGT300クラスの予選Q2。16台のマシンがポールポジションを目指して戦うことになった。予選Q2を担当した吉本選手はすぐにコースインし、計測3周目に1分33秒225のベストタイムを記録。翌周もアタックを続けるがタイムを更新することができず、5周目にピットに戻った。予選Q1よりもタイムアップを果たしたが、ライバル勢がさらにタイムを更新したため12番手となった。



明日の決勝レースは12位から追い上げることになるが、去年は13台をパスしたコースなので、上位進出を目指すことになる。

Team Comment



Director :飯田 章

昨シーズンは好成績を収められたので良いイメージでサーキットに入ったのですが、公式練習からスピードが足りませんでした。今シーズンはコンスタントにポイントを獲得していますが、上位に入るにはさらなるトライが必要です。色々チームとしては対策を取っているのですが、ライバル勢に対して進歩が少ないのかもしれませんが。12番手からのスタートとなりますが、決勝レースは何が起こるか分からないので、最後まで力を込めて戦っていきます。



Driver :吉本 大樹

昨年と同じ状態でマシンを持ち込んだのですが、コースコンディションと合っていないようでした。公式練習ではタイヤの確認とセットアップを進めていきましたが、パフォーマンスを引き出しきれていない状態です。予選Q2は先行車のタービュランスを受けてややタイムをロスしたのですが、それでもトップのタイムは全く見えません。タイヤのコンパウンドが異なるのかもしれませんが、決勝レースもあのままのペースだと苦しいですね。公式練習でロングランを担当した宮田選手のコメントはポジティブだったので、明日の決勝レースは状況に合わせた戦略を採って、少しでも上の順位でゴールします。



Driver :宮田 莉朋

公式練習ではロングランと予選シミュレーションを行なったのですが、どちらもスピードが足りていない状況です。昨年が好感触だったので、そこまでマシンのセットアップが進んでいないようです。予選Q1はタイヤのウォームアップが上手くいかず、グリップのピークとアタックのタイミングを外してしまいましたが、それでも予選Q1突破という最低限の役割は果たせました。決勝レースは、公式練習のロングランでのタイムの落ち込みが少ないのを確認しています。また、戦略の幅を持っているので、ライバル勢の動向をしっかりと見ながら優勝を目指して戦っていきます。

